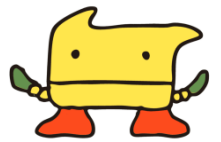


嬉望

第3号
令和3年3月23日
兵庫教育大学
教職大学院
学校経営コース
大学院生編集部
(高橋・坂本)

「嬉望」は、本学加東キャンパスが嬉野台地区にあることと、「希望」とをかけた造語です。



ひょうちゃん

大学マスコット

令和二年度修了

厳しい冬の寒さもいつしかやわらぎ、穏やかな春の日差しが心地よく感じられる季節となりました。春の訪れは同時に別れの訪れでもあります。

今年度は、昼間部十一名が教職大学院での学びを終え、巣立っていくこととなりました。また、これまで本コースで指導をいただいた浅野良一先生、小西哲也先生も年度末をもってご定年となります。

今号では、そんな修了生の思い、学習世界に導いてくださった大学の先生方からはなむけの言葉、また浅野先生、小西先生のご定年に際しての思いをまとめるとともに、二月の改善プラン発表会について特集しています。

「はなむけの言葉」 学校経営コースの先生方より

学校経営コース長
當山 清実 教授

教職大学院の修了、誠にありがとうございます。

二年間の学修の積み重ねによって、視野の拡大をはじめ、様々な自己成長を実感していることでしょう。

現場に戻り、身に付けた力を存分に発揮すべき時です。置かれた場所で、課題解決に果敢にチャレンジしてください。

実効性や持続性からも単独による取組には限界があり、周囲を巻き込む努力が必要不可欠となります。

効果的な実践に向けて、さらに学び続け、成長を志向する環境に身を置くことにも留意してください。

教育界の活性化を先導し、中核的な役割を果たしていかれることを期待しております。

浅野 良一 教授

二年生の皆さん、修了おめでとうございます。この二年間、十一名の皆さんと一緒できたことを嬉しく思います。この年次は、P2の一年間のコロナ禍があり、研究のみならず学習活動にご苦労をされました。ただ、これも何らかの意図があるカリキュラムのひとつだったと考えれば、後に生かすことは十分可能です。是非、大学院で学ばれたさまざまなことを、今後の人生に活用してください。本当にお疲れ様でした。

小西 哲也 教授

リーダーとなる君へ
修了おめでとう。

「一枚岩」一九九〇年頃の中学校でしきりに唱え続けた教職員がまとまるための呪文です。生徒指導の方向性は人それぞれ。ばらばらの指導でも受け入れてくれた優しい時代が終わったことを意味していました。そして三十年経った

今も生徒指導の流儀は違えど「チーム学校」として一枚岩となることを求められます。近い将来、必ずやリーダーとなる皆さん。預かった学校をどのように成果に導くのか。悩みはつきません。

私は、顧問として部活のチームを作ることに校長として組織をまとめることはほとんど同じではないかと考えたりします。①目標がはっきりしていること。②勝つための戦略を一人一人が理解していること。③そして、何よりも全員の気持ちが一つになっていること。

ぶれない目標で、目指す姿を信じ、気長に続けること。いずれリーダーとなる皆さんに贈る言葉です。

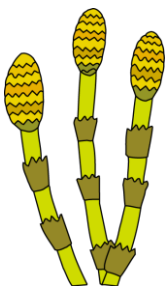
川上 泰彦 教授

修了おめでとう。ごいませ。昨年度末から続くコロナ禍で、皆さんとは、さまざまな学びの形を手探りしました。学びは授業者と学習者の共同作業だということ、「よきリーダー」だけでなく「よきフォロワー」があつて組織はよく動くということ、生々しく感じた一年でした。皆さんは「ポストコロナ」の

学校をリードし、マネジメントすることになります。距離こそ離れますが、変えるべきこと、変えられないこと、変えてはいけないことを一緒に考え、手探りするお手伝いができればと思います。

黒岩 寛 准教授

修了される院生の皆さんは、一年次の通常の対面授業・大学院生活から、二年度はオンライン授業・在宅での研究と一八〇度学び方が変わったこととは思いますが、そんな中で学びを深め、立派な研究成果を残されたことは皆さんの努力と探究心の賜物だと感じています。そして、この厳しい状況下に対応して学んでいくという汎用的スキルを例年以上に皆さんは身につけています。本学での学びと身につけた力を活かして、それぞれの現場でリーダーとして活躍されることを期待しています。修了おめでとうございます。



安藤 福光 准教授

P2の皆様、ご修了おめでとうございます。今年度、厳しい状況下でのインターンシップや研究活動は想像以上に困難であったのではないかと推察いたします。

しかし、その中で色々なヒト・モノ・コトと「あーだこーだ」と議論しながら、最善もしくは最適を探り、それを取り組まれていたのではないのでしょうか。

これってまさに「生きる力」ですよ。この経験をこれからのキャリアでも是非。ご自身だけでなく周囲にも是非。

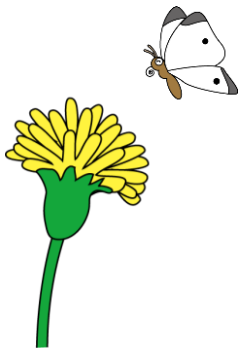
神内 聡 准教授

修了生の皆様とは一年間のお付き合いでしたが、課題研究や改善プログラム発表を通じて、私にとっては現職教員の先輩として様々なことを学ばせていただきました。私も生涯学習を体現されている皆様に刺激されて、この四月から母校の博士課程に進学し、学ぶ立場になります。いつか私も皆様のよう

に学んだ糧を学校現場に還元できるようなれたらと思っています。今後とも皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

前田 麦穂 特別研究員

大学院修了おめでとうございます。この一年は予想もなかった環境変化で、大学院で研究を進めるのも、実地でのインターンシップに取り組むのも、様々な困難の伴う日々だったかと思えます。本当にお疲れ様でした。課題研究を聞く機会を頂く中で、学校の役割や地域との関係性などを細やかに分析しつつ、教員としての熱意を持って研究を進めるP2の皆様さんから大変多くを学ばせて頂きました。今後も益々のご活躍をお祈り申し上げます。



「修了にあたって」

二年生より

兩宮 久仁

(兵庫教育大学附属中学校)

教科教育と学校経営のどちらを学ぶか悩んでいた私も「教科教育ぐらい学ばなくても出来て当たり前！」との一言で力強く押し出してくれた小西先生に感謝しております。学校経営コースでの学びは、教育や学校のあり方について、学校全体を見通した視点から考えることができると感じました。私自身の中で大きな転換期となった二年間であったと感じています。この学びや経験を生かし、今後も研鑽を積んでいきたいと思えます。本当にありがとうございました。

石井 基晴

(兵庫県立神戸高等学校)

二年間の大学院生活はときには楽しく、ときには苦しく、二年目はコロナ禍で不安や孤独感もありましたが、自分にとってこれまでにない経験や思考の数々をさせていただき、大変良い時間を過ごすことができました。四月

からはいよいよ現場に戻りますが、この大学院での学びを活かして尽力していきたいと思えます。学校経営コース・現任校の諸先生方をはじめ、大学院生の皆さん、そしてお世話になったすべての方々に感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

井村 博文

(山口県立防府高等学校)

学校経営の在り方について、今までは全く異なる視点で捉えることができた二年間でした。特に、理論知と実践知との融合を図る視点に立つ教育研究の重要性について学ぶことができ、有意義な時間を過ごさせていただきました。これからは、山口県教育の充実・発展のために微力ながら貢献していきたいと思えます。この二年間ご指導いただいた先生方、共に切磋琢磨した院生の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

大崎 みずほ

(兵庫県立湊川高等学校)

人の温かさに触れた二年間でした。日本の教育は、教

えを乞う人間に温かいこと、誰かのためにという思い、頑張っている人間を応援する土壌があることを改めて感じました。このような愛(仁)を忘れずに、人間性を含めたキャリアを積み、兵庫県の教育に貢献することでご恩送りとさせていただきます。小西教授をはじめとする諸先生方、現任校の皆様、院生仲間、派遣元の兵庫県教育委員会、お世話になりました全ての方々に心より感謝申し上げます。

桂 志保

(兵庫県立西宮香風高等学校)

この二年間は、学校経営の講義やフィールドワークを通して、視野を広げる機会をいただきました。教育や学校のあり方について、これまでとは違う角度から考えるきっかけとなり、貴重な学びとなりました。先生方をはじめコースの皆様、お世話になった方々には心から感謝申し上げます。大学院で得られた知見を生かし、今後も研鑽を積んでいきたいと思えます。本当にありがとうございました。

梶谷 彰信

(兵庫教育大学附属中学校)

附属中に勤務しながらのため、組織マネジメントの前に自分のスケジュールのマネジメントから始まりましたが、多くの方々のお世話になり無事に修了することができました。二年間の一番の学びは視野の広がりです。これまで意識したことのない視点から考える度に見方が変わっていく感覚がありました。改善プランは土壇場で大きな変更を余儀なくされ途方に暮れましたが、何とか形になりました。二年間、本当にお世話になりました。

川本 卓

(山口県山口市立二島小学校)

私自身、これまでに教員、管理職、教育委員会事務局として行ってきたことが、まだまだ甘いと感じさせられる二年間でした。先生方の素敵な講義、他府県の学校や教育委員会、院生のみなさんとの交流、インターシップなどを通して、多くのことを学べました。これからは、ここで得た貴重な財産を活かして「みんなが輝く学校」づくりのために邁進していきたいと思

います。大学の先生方、院生の皆様、これまでありがとうございます。ありがとうございました。

西村 隆一

(山口県萩市立萩西中学校)

生まれて初めて山口県を離れて過ごした二年間は、私にとつて大変貴重な時間となりました。大学院の講義やフィールドワークでの学びを通して、教員としてさらに成長する機会を与えていただきました。これまで経験だけさまざまな課題に向き合ってきましたが、今後は、しっかりとしたここで学んだ理論に基づいて課題に対応していきたいと思ひます。学校経営コースの先生方、共に研鑽してきた同士には心から感謝いたします。

西本 慶輔

(兵庫県立和田山高等学校)

学校現場しか知らなかった私にとつて、大学院での様々な「学び」と「研究」という体験は、これからの自身の礎となると確信しています。また、先生方、同期をはじめとした院生、その他授業や研究を通じ、多くの方に出会い、様々な刺激を受けまし

た。この「人」とのつながりを生涯大切にしながら、今後は、生徒や職員にも「出会い」と「つながり」の大切さ・面白さを伝えていきたいと思ひます。本当にありがとうございます。

橋井 哲朗

(鳥取県立米子東高等学校)

自由な時間の多い大学生活では、ビジョンを持つて主体的に学び続けることの大切さを教わりました。また、この一年は学生寮に籠ることも多く、自己を見つめ直す良い機会になりました。

先生方には、個の視点からしか捉え切れていなかった学校組織を、行政や管理職など様々な立場から多角的に捉える視点を与えていただき感謝いたします。「知命」となる2021年は大学の学びと出会いを財産として、自己のミッションを自覚しながら得たものを具体的に形にしていきたいと思ひます。



吉田 利徳

(兵庫県立小野工業高等学校校定時制)

先生方の講義やフィールドワーク、コースの皆様との協議や協働を通して刺激を受け、知見を広げることができました。また、自分自身の考え方や判断のあり方について省察し、新たな視点を獲得の機会となった貴重な二年間でした。お世話になった全ての方々に心より感謝しております。本当にありがとうございます。大学院で得た学びを今後現場で生かせるように精進します。

心よりお祝い申し上げます。
今後の益々の御活躍を祈念
しております。

浅野 良一 教授・
小西 哲也 教授の
ご定年にあたって

浅野良一先生と小西哲也先生が令和二年度末をもってご定年を迎えられます。ご定年を記念して、両先生の最終講義が二月二十三日の午後、本学神戸ハーバーランドキャンパスでの対面とオンラインのハイブリッド方式で開催されました。

プロフィールの紹介の後、小西先生は「起源1996ー教育改革の行方ー」をテーマに、浅野先生は「学校組織マネジメントと私」をテーマに、豊富な資料を基に、ユーモアを交えながら講義をしてくださいました。

両先生の最終講義から、教育改革や学校組織マネジメントに関する学びをさらに深めることができました。浅野先生、小西先生、長年にわたりご指導を賜り、誠にありがとうございました。



「退職にあたって」

浅野 良一 教授

このたびは定年退職を迎え、十四年間の兵庫教育大学勤務にピリオドを打つことになりました。長い職業人生の最後に、本学で勤務できたことの幸せを感じております。大学時代に志したスクールマネジメントの教育と研究に携わることができたのは、何よりも幸運でした。縁あって、四月からも本学の特任教授として、活動させていただきます。少しでも皆様のお役に立てればと存じます。今後とも、よろしくお願ひします。

「退職に寄せて」

小西 哲也 教授

お世話になりました。平成二年から皆さんと同じように大学院生として学びました。そして三十年を経てまさかの勤務。六年という短い期間でしたが皆様のご支援のおかげで何とか退職を迎えることができました。心より感謝申し上げます。

さて、最近のアメリカの研究で長寿の秘訣の条件一位は食事でも運動でもなく「人とのつながり」だという記事を目にしました。いよいよ兵

庫県でもコミスクが始まるとのこと。「地域と学校のつながりづくり」を託してお礼の言葉といたします。ありがとうございました。



学校経営・教育行政
改善プラン発表会

令和三年二月六日・七日に改善プラン発表会が兵庫ホールにて行われました。七日の発表に先立ち、兵庫県学校経営コース同窓会総会も行われました。新型コロナウイルス感染症状況を鑑み、同窓会はオンラインでの開催となりましたが、令和三年度同窓会役員の紹介や在学兵庫県院生の紹介などがありました。

二日間の発表会では各所属の学校現場の管理職や派遣元の教育委員会からの参加があり、発表を見守られま

した。はじめに、當山学校経営コース長から改善プランの「五つの観点」についての説明があり、二年生が本コースにおける二年間の学修やフィールドワーク、インターシップの成果をふまえてまとめた改善プランが発表され、厳粛な雰囲気の中で行われました。多数の修了生の方々のオンラインでの参加もあり、対面・オンラインともに活発な質疑応答がなされました。

一年生は、学校経営もしくは教育行政の実践を改善するための具体的な計画作成を事例から学ぶ機会となりました。

二年生は、参加者からいただいたアドバイスを、今後の学校現場に活用していくための大事な発表会となりました。

年度末のお忙しい中、貴重な休日にも関わりませずご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



改善プラン発表会
令和3年2月6・7日
当日の様子

《編集後記》

新型コロナウイルス感染症の影響で昨年度末から臨時休業が続ぎ、令和二年度は当初から予定されていた学校経営が計画通りに実践できなくなり、波乱含みで始まった一年でした。

新しい生活様式のもとで、三密を回避しつつ、どのように学校における教育活動を展開するか工夫が求められています。無理に元の生活に戻そうとするのではなく、新たな発想で、これまでの学校における教育活動そのものを見直すことにつながるのではないのでしょうか。このように社会が大きく変動する中、本コースの院生は学び続けています。コロナ禍のピンチをチャンスにしたいものです。

とりわけ二年生は、「改善プラン」にまとめた本学における学びの成果をそれぞれの現任地の学校教育に還元すべく、固い決意と共に準備を進めています。

来年度も大学院での学びの様子を学校にお届けできるように、「嬉望」の発行に取り組んで参ります。

(一年生 高橋・坂本)